稲城野草散策の会

野草スケッチ　サボンソウ（ナデシコ科）

1996/07/11　　稲城市押立　　絵と文　Ｔａ

サボンソウは帰化植物である。
明治の初めに薬用・観賞用として持ち込まれ、栽培されていたものが逃げ出して野生化したと言われている。
山梨県、長野県には野生化したものが広く見られるそうである。
稲城市の場合は多摩川の河原にときどき出現する。

会報第７９号　２０１１年７月２４日発行　発行責任者　尼子　房夫

山梨からはるばると旅をしてきたものであろうか。

多摩川でサボンソウをはじめて見たのはいつ頃だったろう。
一目で栽培から逃げ出した帰化植物、との見当はついたが、名前がわからない。
対生した葉と花の形から、ナデシコ科ということはわかる。
家へ帰ってから図鑑を調べた。

愛用している「野に咲く花（山と渓谷社）」には載っていなかった。
あまりポピュラーでない帰化植物は、普通の図鑑では調べられないことがよくある。
こんどは「牧野新日本植物図鑑（北隆館）」を当たってみた。
おお、出ている。さすがは「図鑑の北隆館」だ。
明治の帰化植物なら、牧野博士の目に止まらなかったはずがない。納得である。

名前のわからない植物に出会ったとき、科の名前がわかると、調べやすい。
というより、科の見当もつかないと、お手上げである。
大概の図鑑は科別に整理され、記載されているからだ。
科別といっても、科の順序は決まっている。
考え方としては、進化の古いものから新しいもの（逆の順序もある）という並びである。
このように並べると、似ている科は近くに配列される。
したがって、正確な科がわからなくても、〇〇に似ていると思ったら、その近くを探せば見つかる確率がグンとアップする。

そうはいっても、パっと見て科がわかるようになるまでには年季が必要である。
このあたりを、初心者でもわかるようにするためには、どういう教え方が必要なのか、いつも迷う。
せめて、科の名前に慣れ親しんでもらおうと、植物名を説明するときには、科名を付け加えたり、科の特徴を話したりしている。
質問があれば、できるだけ詳しく説明する。

昔の観察会は、先生の言うことをありがたく拝聴するような雰囲気で、下手に質問をすれば先生の機嫌がとたんに悪くなる・・・といったこともあったらしい。
先生が持っている知識や識別ノウハウは、教わるのではなく、盗むものだったという。

いま、こういうタイプの指導者は、私が知る限り、皆無である。
教え方も進歩しているし、かつては「学問」だったものが、いまは趣味、レジャーになってきている、という変化が大きいと思う。

2000 年6月に稲城野草散策の会で多摩川べりを歩いた。
暑い日であった。
サボンソウを見たいという人がいて、たまたま前の週に咲いているのを確認してあったので勇んで案内した。
しかし、そこで見たものは拉致された痕跡であった。
数年前の記憶を頼りに別の場所を探したが、河原の様相は増水によって大きく変わる。
その日は結局あきらめるしかなかった。

数日後、さらに別の場所でサボンソウを見つけたが、後の祭りである。
河原の帰化植物は気まぐれ娘みたいなものだ。
こころして付き合うしかなさそうである。
（２０００年７月記）

＊　＊　＊　＊　＊

〔観察記録〕６月２７日　神代植物公園

梅雨のさなかでしたが、雨も降らず、といって日も差さず、この時期の観察会としては、快適な観察日和だったと思います。
神代植物公園前にお集まりいただいた方は５４人。

神代植物公園の開園は昭和３６年だそうで、土地の収用が始まったのは、それより２０年ほど前です。元々、内務省主導の緑地計画の一環ではあったのですが、時局柄、予算が認められなかったため、軍の防空計画に乗る形で、「防空緑地」という名目での土地の収用になったようです。
戦後、農地改革との絡みもあって、占領軍から旧地主に土地を返還せよ、との命令があったようで（土地を収用した東京都は不在地主とみなされていた）、「元々公園にするつもりで収用した土地なので、返還はご容赦を」と訴えたようですが、占領軍は「軍用目的で収用したのだから地主に返還せよ」と聞く耳を持たなかったそうです。ハラのなかでは「敗戦国風情に上等な公園など不要」と考えていたようで、収用面積の6割以上が旧地主に戻されたのだそうです。

この時期、都市道路計画も、色々あったみたいですが、同様の理由でツブされてます。今では桜の名所となっている文京区の播磨坂なんかも、占領軍に潰された都市計画道路環状３号線のカケラですね。

それでも独立後、ある程度の土地を買い戻して、当初の三分の一程度の規模にはなりましたが、都立県立の公園が、次々に作られていきました。砧公園、城北中央公園、小金井公園、舎人公園、水元公園、神奈川県の等々カ緑地なども、同様の経過をたどった公園です。

戦前の都市緑地計画についての講釈はこの辺にして、園内に入ると野草園から、おおよそ時計回りで散策を始めました。バラ園でやや早めの昼食タイム、午後からは温室を見学の後、水生植物園に向かいました。続いて水生植物園と隣り合わせの深大寺城址でソバ畑をを観察してとりあえず解散となりました。時間と体力に余裕のある人たちは、更に調布野草園へ向かいました。（とーはもん）

▼観察記録（出現順）

クサソテツ、トウグミ、タラヨウ、ネコノチチ(花)、リョウブ(花)、センダイタイゲキ、ホタルブクロ(花)、マユミ(実)、ミドリヨウラク、ハエドクソウ(花)、キツネガヤ、ムラサキシキブ(花)、ミゾシダ、マイヅルソウ、ナンテン(花)、カラムシ、ウツボグサ(花)、ムラサキ(花)、オオバジャノヒゲ、シロヤマブキ、ハイノキ、ウバユリ、ハグロソウ(花)、チダケサシ(花)、レンゲショウマ、イヌショウマ、ヤブレガサ、タケニグサ(花)、センダン、ケンポナシアメリカデイゴ(花)、ベニバナトチノキ、ナツメ(花)、トクサ、チョウセンキハギ、キリンソウ、イヌワラビ、フジバカマ、ユウゲショウ、ヒロハギシギシ、ナガバギシギシ、ネジバナ(花)、ユリノキ、タイサンボク(花)、バクチノキ、フッキソウ、ヤマボウシ(花)、ハナミズキ、コゴメウツギ(実)、アオギリ、キリ、ニシキギ、ミズヒキ(花)、ヤブミョウガ、ワニグチソウ、シンミズヒキ、オオモクゲンジ、ムクロジ、ヒナキキョウソウ(花)、ヒノキ、エビヅル、オオブタクサ、サワフタギ、エゴノキ(実)、ヒヨドリジョウゴ、シマサルスベリ、ヤブマオ、マヤラン、コウモリカヅラ、ヒツジグサ(花)、ハンゲショウ(花)、ノブドウ、クサレダマ、エゾミソハギ(花)、コウヤワラビ、アレチギシギシ、クサソテツ、シナサワグルミ(実)、コバノカモメヅル、ツボミオオバコ、ナガエミクリ、アシカキ、メヤブマオ

ホソバタイサンボク（by　ぽんこさん）

〔行事予定〕2011/7/24（日）　林試の森公園

項　目	説　明
集　合	am１０時、東急目黒線武蔵小山駅　改札口付近　※会旗目標 武蔵小山駅の改札口は一個所だけです
交　通	ＪＲ山手線目黒駅から２駅目 急行も停まります
行く先	林試の森公園内で観察します。ＪＲ目黒駅　pm4時頃解散予定
見所 その他	ハナガガシなどの珍しい木のほか、外国産の木が見られます
地　図 公園の 園内 マップ	
コース	林試の森公園内を観察します。帰路目黒不動尊に寄り、目黒駅へ

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００

〔行事予定〕2011/8/19～20（金土）

富士山新五合目バスハイク・田貫湖周辺
（申し込みされた方のみ・申し込みが必要です）

項　目	説　明
集　合	京王線調布駅北口西友横の歩道。駅から１５０mくらいです。 ７時２０分厳守（７時半に出発します」
行く先	１９日　富士山新五合目／一泊 ２０日　田貫湖周辺
料　金	当日の参加費：別途連絡
見所 その他	亜高山の植物、湿原植物

〔行事予定〕2011/9/3（土）　長沼公園

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、京王線長沼駅・改札口付近　※会旗目標 長沼駅の改札口は一個所だけです
交　通	京王線京王八王子行きまたは高尾山口行きをご利用下さい 長沼駅には、急行、準特急、特急は停まりません。快速、各駅停車をご利用下さい 急行、準特急、特急をご利用のときは、高幡不動でお乗り換え下さい
行く先 (解散場所)	長沼公園内観察、ｐｍ３時半頃解散予定
見所 その他	樹木ほか
地　図	 」
コース	長沼駅→長沼公園入り口→西尾根の道→頂上園地（昼食・トイレ）→平山口→霧降の道→長泉寺尾根→長沼駅（解散：ｐｍ３時半頃）

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円